8年ぶりに福島ふるさと祭りで土谷浮立が披露されます

伝統芸能である浮立は、主に太鼓や笛、鉦が使用されますが、さまざまな形態のものがあり、それぞれに特徴が異なります。

松浦市内に残る浮立の主なものとしては、鷹島の島踊で披露される浮立を除けば、田ノ平浮立（志佐町）、松山田浮立（調川町）、浅谷浮立（福島町）、土谷浮立（福島町）があります。

田ノ平浮立と松山田浮立は、毎年7月15日に、浅谷浮立と土谷浮立は、4年おきに交代で披露されており、今年は8年ぶりに、11月11日に開催される福島ふるさと祭りに土谷浮立が登場します。

土谷浮立は、舞浮立、踊浮立を基本とした総合浮立です。太鼓中心の演舞で、古式ゆかしい太鼓の所作に特徴があり、二列縦隊で笛の音頭とお先払いの誘導で進みます。

毎年夏休み期間中に、全体稽古が行われ、今も伝統が受け継がれています。

地区住民らの熱意と努力により、大切に保存、継承されてきた郷土芸能をこの機会にぜひご覧ください。

▲前回の披露の様子

田ノ平浮立

毎年7月15日実施

田ノ平浮立は、肥前西部の舞浮立・踊浮立の流れと言われており、大名行列の形態で神社までの道行きと、祇園社境内での演舞とで構成されています。

道行きは、棒つかい－槍－大太鼓－鉦－締太鼓－銭太鼓－ササヒラキの形態で、人形おどりはあやつりの型で残っており、江戸時代からの流れをそのままに伝承している民俗・芸能上貴重な文化財です。

浮立は、明治時代の免則（地区の決まりごと）にも記載されており、田植えや収穫の慰安・慰労の場として、住民同士の絆を強める役割もあります。

松山田浮立

毎年7月15日実施

松山田浮立は、田ノ平浮立と同様に肥前西部の舞浮立の流れと言われています。道行きと彦山大権現の境内で、毎年7月15日に奉納されており、笛、太鼓、鉦、踊りなどを約40～50人で構成する鉦の演奏が主体の浮立です。

こちらも、江戸時代からの流れをそのままに伝承していますが、人口減少や高齢化により、近年、踊りは披露されていません。境内での奉納の後、鉦や笛、太鼓を演奏しながら、公民館まで移動します。地区住民らが慰労を兼ねながら集う交流の場にもなっています。

浅谷浮立

土谷浮立と4年おきに交互に披露

浅谷浮立は、総勢百数十人にわたる行列で、その延長は100メートル以上にもなり、舞楽の雄大さと華やかさに特徴があります。

起源は定かではありませんが、雨乞いやおくんち、その他のさまざまな行事に演じられてきたと言われ、地域の若者達の娯楽的要素も備えていたようです。堀江玄蕃浮立の流れだと伝えられていますが、学者によれば、肥前西部の舞浮立の系統とも言われています。

土谷浮立と同様に夏休み期間中に稽古が行われ、地区住民らにより保存・伝承の取り組みが行われています。

▲前回の披露の様子

平成30年4月～9月
長野県木曽郡木曽町との人事交流研修が行われました

木曽町から松浦市へ

木曽町役場　総務課所属　野田智彦さん

かつて中学生の時、旧福島町との交流事業に参加して以来の九州で、まさかこのようなご縁を頂こうとは！大きな期待と不安の中、伊万里湾を望みながら松浦市へ来た日が昨日のように思い出されます。

当初は気候・文化の違い（特に言葉！）に戸惑いましたが、大らかであたたかな皆さまの気風に助けられ充実した毎日でした。

業務では食と観光のまち推進課で道の駅等の観光施設や情報発信、物産振興を担当しました。全国に誇る体験型旅行や「アジフライの聖地」を目指すマップ作成にも携わらせていただき、松浦市が持つ「人と食」の魅力や可能性を強く感じました。

私生活では趣味の剣道を松浦市でも稽古し、交流させていただきました。受け入れていただいた松浦少年剣道育成会の皆さまには心より感謝申し上げます。

4月1日から半年間の松浦市での生活、今は離れがたく寂しい思いです。でも、それ以上にもう一つの「おらがまち」と感じられる場所とご縁が出来たことを嬉しく思います。関わった全ての方に感謝し、今後も両市町の交流がさらに「よかもん」となるよう架け橋作りに貢献していきたいと思います。本当にありがとうございました。

①アジフライマップ
②体験型旅行業務
③地域のイベントをお手伝い
④松浦少年剣道育成会

松浦市から木曽町へ

松浦市役所　食と観光のまち推進課所属　浦　大悟さん

本年4月1日から半年間、長野県木曽郡木曽町に職員派遣交流で赴任していました食と観光のまち推進課の浦　大悟です。

木曽町役場観光商工課では、イベントの運営、観光PR業務などに携わらせていただきました。

木曽の一大イベントである『みこしまくり』（写真⑤）では、神輿を実際に担がせてもらうという貴重な体験をさせていただきました。たくさんの人が神輿をまくる（転がす）奇祭を見に訪れており、観光客を含め町が一体となって行う祭りのパワーと、その重要さを感じることができました。

観光PRでは、東京新宿の中部地方インフォメーションプラザの観光ブースディスプレイ（写真⑥）の内容変更を担当させていただきました。木曽町が取り組んでいるウッドスタートをアピールするため、木曽檜をつかった商品を展示してきました。

木曽町役場の皆さま、また町民の皆さまには、よそ者であった私に大変優しく接していただきました。始めの内は見知らぬ土地で観光業務という初めての仕事をすることに多少不安もありました。しかし、木曽の人達のあたたかい人柄に支えられ、半年間業務を全うすることが出来ました。

短い間でしたが、半年間の交流で『縁』をしっかりと結ぶことが出来たと思います。この『縁』が途切れることがないよう、友好市町の交流が続くことを願います。

⑦・⑧
木曽踊り参加中の様子